

第3回京都市都市緑化審議会 摘録

1 開催日時

平成27年1月23日(金)午後2時～午後4時

2 開催場所

京都市役所 寺町第4会議室

3 出席者(敬称略)

委員8名(3名欠席)

会長 森本 幸裕

副会長 槇村 久子

委員 井田 典子

委員 菊元 章夫

委員 土江田 曜子

委員 遠島 和恵

委員 中嶋 節子 【欠席】

委員 西本 尚子 【欠席】

委員 松谷 茂

委員 山内 康敬

委員 山口 忠昭 【欠席】

委員 吉野 祐

4 次第

開会

会長あいさつ

報告

(報告1)「京(みやこ)まちなか緑化助成」に係る申請受付状況について

(報告2)「京都市記念植樹奨励事業」に係る植樹者の決定等について

議題

(議題1)次期京(みやこ)のみどり推進プランの策定に係る取組について

(議題2)都市緑化施策の推進に係る今後の審議会運営について

その他

閉会

5 会議録

(1) 議題

次期京（みやこ）のみどり推進プランの策定に係る取組について

審議の結果，次期京（みやこ）のみどり推進プランの策定に係る取組について，事務局が提案する方向性で，進めていくこととなりました。

（御意見 1）全体の方針に係ること

- ・ 京都市の厳しい財政状況の中で，できることを絞り込んでいった方が良いのではないかと。限られた予算の中で選択と集中が必要と考えられる。
観光都市の特色を活かし，人々が集まるところを重点的に緑化していくという方針もある。

（御意見 2）周辺の山々と山すその緑の保全，マネジメントに関すること

- ・ 京都市の「区民の誇りの木」の取組では，地域の身近な樹木について，地域の人に関心を持ってもらえたと同時に，データベースもしっかりできた。今あるまちの資産を大切に使い，マネジメントしていくべきだ。
- ・ 歴史を持っている樹木をどうやって守っていくのかも重要なテーマとなる。
- ・ 京都市の鎮守の森も守っていかないとこのままでは消えていく。町屋には図面があるが，鎮守の森は立派な木もあれば細い木もあり，森の記録は難しい。プロの視点がいる。
- ・ 緑化の観点，樹木の記録がこれまでにできていない，記録が大事である。
- ・ 景観政策と連携した鎮守の森をマネジメントに乗せる必要がある。

（御意見 3）市街地の緑の 保全，創出，活用に関すること

- ・ 街並みに関心を持ってもらう施策を織り込まないと民有緑地の保全に協力してもらうのは，難しいと思う。
- ・ 学校など公共施設のような場所へ助成する場合は，植栽場所が道路に面してなくてもよいのではないかと。
- ・ 個人に対して助成するのではなく，地域全体で行っている緑化活動にも助成すべき。
- ・ 緑化アドバイザーの活用に対する助成など，「物」よりも「動き」に対して助成できる仕組みが必要。

（御意見 4）水と緑のネットワークづくりに関すること

- ・ 緑は，目を癒すなど命に係わる効果が多岐にわたるように，この部局だけでなくほかの部局とも連携し推進していくべき。

（御意見 5）市民・事業者との協働による緑豊かなまちづくりに関すること

- ・ 高齢化の問題により市街地の緑化に携われる人が少なくなっている。
- ・ お金をかけていることよりも，ボランティアを広げていく方が大切で，子供たちと一緒に花苗を植える機会を増やすべき。実際の緑化は，1回やって終わりではない。

汗を流して植えた木は、観察するようになるだけでなく、地域への愛着が芽生える。子供たちが木と一緒に成長していく姿、変化していく姿も含めて見つめていくことにつながればよいと思う。

- ・ 企業の力を活かす。世界に誇れる技術があり、毎年変わるイベントも提案を受けることができる。
- ・ 都市の新しい広場として屋上を解放するという考え方がある。
- ・ 寄付による緑化等は、広く周知して行くべき。
- ・ まちを華やかにするため企業と連携する。社会貢献として活動できる仕組みを考える。

都市緑化施策の推進に係る今後の審議会運営について

今後の審議会運営について、以下の御意見をいただきました。

- ・ 公園に対する市民協働のとらえ方を検討すべき。
- ・ 市民協働というニュアンスをどうとらえていくか検討すべき。
- ・ 環境教育の視点で、委員にバイオ関連の分野の方が入られるのも良いのではないか。